

## 1 学校教育目標

- 自ら考え創造する人
- 素直で思いやりのある人
- 健康でたくましい人

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厳しい中にも温かみのある学校</li> <li>・一人ひとりの生徒の良さを伸ばす学校</li> <li>・地域・保護者・生徒から信頼される学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真剣に学びにチャレンジする生徒</li> <li>・礼儀を重んじ、適切に表現できる生徒</li> <li>・自らを律し、夢に向かって自立する生徒</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に適切に要求でき、信頼される教師</li> <li>・常に工夫し、建設的な提案ができる教師</li> <li>・組織で教育を実践できる教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 〈学校の現状〉

- ◎学校について [よさ]大変落ち着いた教育環境が提供できている。  
[課題]学校の特色化と魅力ある学校づくりの創造を図る。施設設備の改修、補修。
- ◎生徒について [よさ]大変素直で、何事にも真面目で熱心に努力している生徒が多い。  
[課題]自ら考え、判断し、表現し、行動しようとするのが少ない。不登校生徒が多い。
- ◎教師について [よさ]学習・生徒指導に粘り強く取り組み、生徒・保護者からの信頼が厚い。  
[課題]足立スタンダードに基づいた授業改善が必要である。自立に向けた教育実践の推進。
- ◎保護者・地域について [よさ]活気ある学校づくりを願い、教育活動に協力的である。  
[課題]PTA活動の活性化と地域連携・協働をさらに向上する必要がある。

### 〈前年度の成果と課題〉

- 活気があり真面目に努力する生徒の育成が図られている。
- 学力の確実な定着と向上に向けた授業改善と家庭の教育力の向上を図ることが課題である。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5

1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○

## 5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
確かな学力の定着と学力の向上を図る		<ul style="list-style-type: none"> <li>到達度確認テスト 正答率 60%</li> <li>令和4年度区調査 通過率 60%</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>到達度確認テスト正答率 59.3%</li> <li>令和3年度区調査通過率 63.1%</li> </ul>		到達度確認テスト正答率は若干低い数値になった。教科では数学に課題がある。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続改善	「分かる授業」への授業改善	全教員	年間2回実施	「足立スタンダード」を活用した授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>授業観察</li> <li>定着確認調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的回答 80%以上</li> <li>ねらい、振り返り 80%以上実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的回答 84%</li> <li>ねらい、振り返り 84%の実施</li> </ul>	昨年度よりも「ねらい、振り返り」の実施率が向上した	◎
2 継続改善	ICTの活用	全教員	年間2回実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>5教科はデジタル教科書の活用</li> <li>その他の教科は単元内でタブレットを複数回活用</li> <li>後期は生徒の活用推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート</li> <li>活用確認調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的回答 80%以上</li> <li>80%以上の活用率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>75%の教員が90%以上活用 25%は70%以上の活用</li> <li>生徒の活用は、約50%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の活用率は向上している。</li> <li>生徒の活用をさらにすすめていく。</li> </ul>	△
3 継続改善	放課後補充教室の実施（がんばるクラブ）	区調査下位（C・D層）生徒対象。数学・英語	週4回（月・木） 数学・（火・金） 英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまずきの部分のプリントを作成し、全教員が指導にあたり実施</li> <li>11月以降中間層も対象</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容ごとに定着度を測るテストを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定着度テストで80%以上</li> </ul>	新型コロナウイルス感染症拡大時期にあたり未実施多く不明		評価できず

4 継続	家庭学習の習慣化	全生徒毎日提出	年間	・毎日最低ノート1ページの家庭学習ノートの提出	生徒アンケート並びに教員の調査	100%の提出	・1年2年97%、3年95%	100%ではないが、ほぼ提出できている。	○
5 継続	1年間の総復習	3教科	3月初旬までに実施	・区調査問題を活用した、到達確認テストの実施 ・未到達生徒への補習実施	・到達確認テストの採点結果 ・正答率30%未満の問題を授業内で再度指導	正答率60%	・1年57.4% ・2年61.3% 平均59.3%	特に数学が低い値になっているため、授業内での復習を確実に実施する。	○
6 継続	サマースクール	5教科の内容を指定生徒対象に補充する。	夏休み期間中の7日間	基本的な内容の定着を図るために、教科担任を中心に全校体制で指導にあたる。	定着確認テストでの確認	定着確認テスト60%	新型コロナウイルス感染症拡大により中止	6日間のサマースクールは実施できたが、定着確認テストのみ実施できず。	評価できず

重点的な取組事項－2					
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感の向上と心の教育の充実		生徒アンケートの肯定的評価80%	生徒アンケートの肯定的評価61%	学校行事や学年行事だけでなく、日常の関わり方や指導について検討が必要	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校生徒への支援	・関係諸機関と連携した不登校状況の改善 ・不登校生徒の改善昨年度比80%	・SCやSSWと共に週1回の会議を開催し、個に応じた対応を確認し、家庭との連携を図る	・週1回の校内会議は実施。個に応じた対応を適宜検討した。 ・不登校生徒昨年度比126% 6名増加（小学校から継続7名）	・校内会議の実施は定着し、外部機関との連携も進んでいる。 ・不登校生徒の増加の要因を確認し対策を検討する。	△

自尊感情を高める指導の充実	・生徒アンケートの自己肯定感等に関する肯定的な評価を80%以上	・学校行事や学年行事で自尊感情を高める場면을意図的、計画的に設定。 ・道徳や総合等の時間を利用して、自己肯定感を育む指導を計画的に実施	・生徒アンケートの自己肯定感等に関する肯定的な評価が70%と昨年度より10%下がった	・今年度もすべての行事を実施することができなかった。 ・次年度はボランティア活動も充実させていく。	△
いじめ防止および心の教育の充実	・区調査、生徒アンケートの肯定的な評価を80%以上 ・いじめアンケートの件数昨年度比80%	・人権教育週間を年2回設定し、生徒会が中心となり各委員会の取組を充実	・区調査、生徒アンケートの肯定的な評価を89.3% ・いじめアンケートの件数昨年度比80%	・生徒アンケートでは、高水準を維持している ・いじめアンケートの件数は、昨年度5件から4件になった。	○

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

- ・今年度も新型コロナウイルス感染症対策のために、計画していた行事や取組が十分できなかった。
- ・ICTの活用は着々と進んでいるが、授業における生徒の活用方法等をさらに工夫してすすめていく。
- ・不登校等の個別支援を組織的に行っているが、件数が減少せず改善方向に進まない。小学校との連携も図っていく。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

- ・生徒の様子について発信する機会を増やしているが、新型コロナウイルス感染症により参観する機会が失われてしまい残念である。地域行事への参加も同様であり、次年度に向けて方策を考えていきたい。
- ・抽選校として選ばれる学校になり、安心安全な教育活動をさらに進めていきたい。
- ・生徒の自立を目指すために、家庭、地域、学校の役割と関わり方について協力と理解をお願いしたい。

### (3) その他（学校教育活動全般について）

- ・教育目標およびめざす生徒像を達成するために、様々な教育活動を見直し生徒の自主的な活動を進めていく。
- ・Society 5. 0やSDGsの社会づくりに向けた取り組みを中心に据えた教育活動を構築していく。